

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K00724

研究課題名（和文）マス・ソーシャルメディアと災害デジタルアーカイブのインテグレート手法の研究

研究課題名（英文）Study on integration method of mass & social media and disaster digital archive

研究代表者

渡邊 英徳（Watanabe, Hidenori）

東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授

研究者番号：00514085

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではマス・ソーシャルメディアと災害デジタルアーカイブの統合を目的とした。災害アーカイブの白黒写真をAI技術を用いてカラー化することで、リアルタイムの災害情報・アーカイブされた災害資料とを、違和感なくインテグレートできた。その結果、ソーシャルメディアでの発信に大きな反響があった。さらにマスメディアとの共同企画、実展示などの成果も生まれた。研究代表者のツイッターに投稿したカラー化写真のインプレッション数は、研究期間内に3億回以上となり、活発な対話が生まれた。実展示においても活発な対面の対話が生まれ、オフラインのコミュニティが形成された。これらのことから、本研究の目的は達成されたといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

災害デジタルアーカイブは、多面的な災害の「実相」を伝える知識基盤である。しかし、いまだ十分に活用されていない。本研究の手法により、災害アーカイブに“ストック”されていた資料が“フロー”化され、創発するコミュニケーションによって情報の価値が高められる。本研究の成果は、災害デジタルアーカイブの活用を促進し、貴重な資料とできごとの記憶を、未来に継承するための一助となり得る。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to integrate mass social media and disaster digital archives. By converting black and white photos of disaster archives to color using AI technology, we were able to naturally integrate real-time disaster information and archived disaster materials. As a result, there was a notable response to the social media outreach. In addition, joint projects with the mass media and actual exhibitions were also produced. The number of impressions of the colorized photos posted on the principal investigator's Twitter was over 300 million during the study period, creating a lively dialogue. Active face-to-face dialogue was also generated in the actual exhibition, and an offline community was formed. Therefore, it can be said that the purpose of this study has been achieved.

研究分野：情報デザイン，デジタルアーカイブ

キーワード：カラー化 デジタルアーカイブ ソーシャルメディア マスメディア 写真 デジタルアース AR デザイン

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

災害発生時には、さまざまな情報がマスメディア・ソーシャルメディアで発信される。阪神・淡路大震災発生後には、電話と交通機関が途絶し、被災地中心部の情報が空白になる問題が発生した。インターネットが広く普及したのちも、被災状況についての報道空白地域が生じ、被災地からの情報発信が十分に行われず、支援活動の妨げになっていたと指摘されていた。こうした問題を解決するために、マスメディア・ソーシャルメディアの災害情報を活かして、災害の状況をユーザ自身が把握するための手段が求められていた。加えて、激甚化・多様化する災害のデータをアーカイブ化することによって風化を避け、長期に渡って継承し、将来の減災・防災の糧とするための手段も必要となっていた。

2. 研究の目的

研究期間開始当初の目的は、背景を踏まえ、マスメディア・ソーシャルメディアの災害情報と、災害アーカイブのデータをリアルタイムにインテグレートし、災害発生時において相補的に機能させるとともに、長期に渡って利用可能にすることであった。しかし、そうした機能を備えたウェブサービスがコモディティ化してきたことを踏まえ、2018年度より、当初の研究目的は維持したまま、リアルタイムの災害情報とアーカイブされた過去の災害資料とを、視覚的に違和感なくインテグレートすることに照準を絞り、研究を進めることとした。

3. 研究の方法

災害アーカイブの白黒写真のデータに、人工知能技術を応用したカラー化処理を加えて、リアルタイムの災害情報とアーカイブされた過去の災害資料とを、視覚的に違和感なくインテグレートすることを試みた (Figure 1~3)。カラー化された災害資料はソーシャルメディア・マスメディアで発信するとともに、実空間での展示を行なった (Figure 4)。さらに、デジタルアースにマッピングし、AR (拡張現実) 機能を備えた災害デジタルアーカイブとして公開した (Figure 4)。



Figure 1. “Mushroom Cloud Seen from Kure,” original and colorized photos (Public Domain. Photo:Masaki Ogi.)



Figure 2. “Japan in 1908,” original and colorized photos (Library of Congress. Public Domain. Photo: Arnold Genthe.) and “Japan Between 1914 and 1918,” original and colorized photos (Photo: Elstner Hilton, provided by A.Davey.)



Figure 3. “City of Kure in Flames,” original and colorized photos (Photo: Association for Recording Kure War Damage.)



Figure 4. Top: Overview of the exhibition of colorized photos and dialogue with people who experienced the war, at the exhibition. / Bottom: The smartphone app screenshots at Hiroshima.

4. 研究成果

成果物であるカラー化写真をソーシャルメディアで発信したところ、大きな反響があった。さらにマスメディアとの共同企画、実展示などの成果も生まれた。研究代表者が SNS に投稿したカラー化写真のインプレッション数は、研究期間内に 3 億回を超え、活発な対話が生まれた。実展示においても活発な対面の対話が生まれ、オフラインのコミュニティが形成された。公開した災害デジタルアーカイブは 1 万回以上ダウンロードされ、多数のユーザに活用されている。これらのことから、本研究の目的は達成されたといえる。

災害デジタルアーカイブは、多面的な災害の「実相」を伝える知識基盤である。しかし、いまだ十分に活用されていなかった。本研究の手法により、災害アーカイブに“ストック”されていた資料が“フロー”化され、創発するコミュニケーションによって情報の価値が高められることが示された。本研究の成果は、災害デジタルアーカイブの利活用を促進し、貴重な資料とできごとの記憶を、未来に継承するための一助となり得る。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 渡邊 英徳、庭田 杏珠	4. 巻 3
2. 論文標題 「記憶の解凍」：カラー化写真をもとにした“フロー”の生成と記憶の継承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 317～323
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24506/jsda.3.3_317	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 渡邊 英徳	4. 巻 3
2. 論文標題 デジタルアーカイブと可視化：進化・創発する実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 292～294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24506/jsda.3.3_292	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Anju Niwata, Hidenori Watanave	4. 巻 -
2. 論文標題 "Rebooting memories": Creating "Flow" and Inheriting Memories from Colorized Photographs	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of SIGGRAPH ASIA 2019 Art Gallery/Art Papers	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1145/3354918.3361904	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 渡邊 英徳	4. 巻 70
2. 論文標題 「東京五輪アーカイブ 1964-2020」1964年大会資料の“フロー”化と記憶の継承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 情報の科学と技術	6. 最初と最後の頁 12～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.18919/jkg.70.1_12	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村賢哉, 秦那実, 井上洋希, 渡邊英徳	4. 巻 2
2. 論文標題 ヒロシマ・アーカイブにおける非専門家による参加型デジタルアーカイブズの構築	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 370-375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.24506/jsda.2.4_370	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊英徳	4. 巻 96
2. 論文標題 「記憶の解凍」 資料の“フロー”化とコミュニケーションの創発による記憶の継承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊英徳	4. 巻 第19号
2. 論文標題 「記憶の解凍」 資料の“フロー”化とコミュニケーションの創発による記憶の継承	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館平和研究－立命館大学国際平和ミュージアム紀要－	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 有本昂平, 渡邊英徳	4. 巻 第2巻第1号
2. 論文標題 階層を有する取引クラスタの時系列でのジオビジュアライゼーション	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.24506/jsda.2.1_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nurjanah, Hidenori WATANAVE	4. 巻 第2巻第1号
2. 論文標題 Lesson Learned from the Aceh Tsunami of 2004: A Digital Multimedia Display of the Aceh Archive Using an Open-Source Platform for Sustainable Disaster Risk Reduction and Global Information	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 8-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.24506/jsda.2.1_8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nurjanah, Hidenori WATANAVE	4. 巻 Vol.21 No.3
2. 論文標題 Aceh Paleotsunami Archive Visualization for Sustainable Disaster Risk Reduction and Global Information	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Asia Digital Art & Design	6. 最初と最後の頁 107-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊英徳	4. 巻 第81巻第1号
2. 論文標題 災いのオーラル・ランドスケープ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究 : 日本造園学会誌	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計47件 (うち招待講演 37件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Anju Niwata, Hidenori Watanave
2. 発表標題 "Rebooting memories": Creating "Flow" and Inheriting Memories from Colorized Photographs
3. 学会等名 SIGGRAPH ASIA 2019 Art Gallery/Art Papers (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 記憶の解凍 沖縄, ヒロシマ, そして東京オリンピック
3. 学会等名 第10回教育ITソリューションEXPO 朝日新聞社ミニセミナー (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳, アーサー・ピナード, 庭田杏珠
2. 発表標題 ヒロシマの記憶を伝えること
3. 学会等名 令和元年度 被爆体験継承事業 企画展「ヒロシマの記憶を伝える ~町と人々の暮らし~」関連イベント「ヒロシマの記憶を伝えること」 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 デジタルアーカイブ等を活用した新たな継承学習会
3. 学会等名 2019 ピースアクション in ヒロシマ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 「ヒロシマ・アーカイブ」と「記憶の解凍」
3. 学会等名 新聞労連・広島フォーラム2019「原点を問う。原点から問う。~ヒロシマを受け継ぎ、伝えるとは~」 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳, 庭田杏珠
2. 発表標題 「記憶の解凍」
3. 学会等名 デジタル時代における戦争体験の継承 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 「ヒロシマ・アーカイブ」と「記憶の解凍」
3. 学会等名 「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」記念イベント 核なき世界へ向けて - それって他人事？自分事？ - (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒瀬陽平, 渡邊英徳
2. 発表標題 これからのデザイン/アートをめぐって
3. 学会等名 DesignShip 2019 Collaboration Session08 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 「記憶の解凍」: 資料のフロー化とコミュニケーションの創発による記憶の継承
3. 学会等名 HCGシンポジウム2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東京大学 渡邊英徳研究室 × 岩手日報社
2. 発表標題 「忘れない：震災犠牲者の行動記録」
3. 学会等名 企画展「地域の編集 ローカルメディアのコミュニケーションデザイン」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東京大学 渡邊英徳研究室 × 岩手日報社
2. 発表標題 「忘れない：震災犠牲者の行動記録」
3. 学会等名 東日本大震災津波伝承館 いわてTSUNAMIメモリアル（常設展示）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 「忘れない：震災犠牲者の行動記録 on Liquid Galaxy」
3. 学会等名 TOKYO 2021「慰霊のエンジニアリング」展（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庭田杏珠 × 渡邊英徳
2. 発表標題 「記憶の解凍」
3. 学会等名 デジタル時代における戦争体験の継承（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庭田杏珠 x 渡邊英徳
2. 発表標題 「記憶の解凍」
3. 学会等名 令和元年度 被爆体験継承事業 企画展「ヒロシマの記憶を伝える 町と人々の暮らし」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 沖縄戦のカラー化写真
3. 学会等名 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館「戦前・戦中・戦後」写真パネル展」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庭田杏珠 x 渡邊英徳
2. 発表標題 「記憶の解凍」
3. 学会等名 広島市医師会・市民公開講演会「忘れまい原爆の恐ろしさを 伝えようヒロシマの心を」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東京大学大学院情報学環・渡邊英徳研究室
2. 発表標題 戦前の沖縄のカラー化写真
3. 学会等名 2019年度春季特別展「よみがえる沖縄1935」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 タイムトラベル1964: デジタルアースでよみがえる東京五輪の記憶
3. 学会等名 教育ITソリューションEXPO 2018 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 000公開レクチャー005「記憶と経験の分有を考える 「多元的デジタルアーカイブズ」と「記憶の解凍」をめぐって 」
3. 学会等名 十日町市市民交流センター分じろう (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 「記憶の解凍」
3. 学会等名 「記憶の解凍」; 平成30年度 被爆体験継承事業 企画展「ヒロシマを記録し伝えた人たちー未来への伝言ー」関連ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 [基調講演]「記憶の解凍」とデータビジュアライゼーション」
3. 学会等名 東京大学空間情報科学研究センターCSIS-S4D 第7回公開シンポジウム「ジオ・データビジュアライゼーションの社会的役割」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 情報デザインとデジタルアーカイブ
3. 学会等名 内閣府 第58回IT広報ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 記憶の解凍:最新技術とコミュニケーションの創発による記憶の継承
3. 学会等名 広テレ新社屋完成記念展示会「記憶の解凍:カラー化写真で時を刻み、息づきはじめるヒロシマ」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 パネルディスカッション 私はTDBのビッグデータをこう料理した
3. 学会等名 データサイエンスシンポジウム2018(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidenori Watanave and Anju Niwata
2. 発表標題 Rebooting Memories: Memory Inheritance Based on Communication Emerged by FLOWING Records
3. 学会等名 Global Policy Forum on Preservation of Documentary Heritage for Disaster Risk Reduction and Management for Sustainable Preservation of Documentary Heritage(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 [基調講演] デジタルアーカイブ『ヒロシマ』と『沖縄』
3. 学会等名 デジタルアーカイブシンポジウム「消えるアーカイブ、育てるアーカイブ」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片淵須直・渡邊英徳
2. 発表標題 「この世界の片隅に」と「記憶の解凍」
3. 学会等名 第二回デジタルアーカイブ産学官フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊康太, 渡邊英徳
2. 発表標題 ドローンユーザを補助する情報共有システムの開発
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 ポスターセッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 與那覇里子, 渡邊英徳
2. 発表標題 モノクロ写真のカラー化技術を活用した対話を促すコンテンツ制作: 情報の多面的な表現手法の実践とクロスメディアによる情報発信
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 ポスターセッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岑天霞, 渡邊英徳
2. 発表標題 戦争映画とコメント情報アーカイブの分析：映画コメントから見る日本と中国の若者の歴史認識
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 ポスターセッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 記憶の解凍
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 企画セッション(6)アーカイブの継承(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 データを紡いで社会につなぐ
3. 学会等名 日本生殖医療支援システム研究会第6回研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山浦徹也, 保阪太一, 斎藤秀樹, 渡邊英徳
2. 発表標題 若年層の地域理解を促進するためのシリアスゲームの提案：デジタルアースアーカイブの構築体験を通じた創造的思考の育成モデル
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第二回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秦那実, 渡邊英徳
2. 発表標題 デジタルアーカイブと併用する学び手志向の平和学習教材の制作
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第二回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊康太, 渡邊英徳
2. 発表標題 デジタルアースを用いたドローンマップ&アーカイブによる風景資産の活用
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第二回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nurjanah, Hidenori Watanave
2. 発表標題 Lesson learned from the Aceh Tsunami of 2004: A Digital Multimedia Display of the Aceh Archive using an Open-Source Platform for Sustainable Disaster Risk Reduction and Global Information
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第二回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村 賢哉, 井上 洋希, 秦 那実, 渡邊 英徳
2. 発表標題 市民とデジタルアーカイブの関係性構築: ヒロシマ・アーカイブにおける非専門家による参加型デジタルアーカイブズの構築
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第二回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidenori Watanave
2. 発表標題 Reboot Memories
3. 学会等名 Peace network construction program by Asian youth (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidenori Watanave
2. 発表標題 Big Data Archives Visualization
3. 学会等名 International Seminar of Archives "Development of Archival Science and Archives Management in Indonesia" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 ニューラルネットワークによる自動色付け写真が創発する文化コミュニケーションの可能性
3. 学会等名 Inter BEE 2017 映像シンポジウム「AIがクリエイティブコンテンツの未来を創る」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 デジタルアーカイブと地域コミュニティの関わりについて
3. 学会等名 デジタルアーカイブ産学官フォーラム; デジタルアーカイブ社会の実現にむけて (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 災いのオーラル・ランドスケープ
3. 学会等名 サイエンティフィック・システム研究会 合同分科会 2017年度会合 ヒトの目、キカイの目（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 データを紡いで社会につなぐ、記憶を伝えるデジタルアーカイブス
3. 学会等名 日本看護歴史学会第31回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 災いのオーラル・ランドスケープ
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第一回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 データを紡いで社会につなぐ
3. 学会等名 大阪市立大学大学院創造都市研究科夏季連続シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 視覚的に伝えることの大切さ 肝炎治療受診の更なる促進のために
3. 学会等名 ギリアド・サイエンス「岡山県肝炎マップセミナー」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川淵三郎, 渡邊英徳
2. 発表標題 東京オリンピック・パラリンピックについて教室で伝えてほしいこと
3. 学会等名 教育ITソリューションEXP02017（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ピース・ニッポン・プロジェクト http://peacenippon.archiving.jp/ 広島テレビ 新社屋「記憶の解凍」展覧会 http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/research/180122rebootmemories 人工知能を使った「記憶の解凍」ワークショップ http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/research/180705kiokunokaito 「記憶の解凍」ARアプリ https://wtnv-lab.github.io/rebootingMemories/ 西日本水害フォトオーバーレイ http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/news/201807098277 南アルプス市ふるさと 博物館 http://maruhakualps.jp/ 美ら島、よみがえる色彩 沖縄戦前写真をAIでカラー化（朝日新聞） https://www.asahi.com/articles/ASL393TVQL39TIPE00Q.html 沖縄戦前の写真、色探す旅へ AIと現地取材で再現試み（朝日新聞） https://www.asahi.com/articles/ASK6P6TRMK6PULZU00T.html 日本新聞博物館 企画写真展「よみがえる沖縄 1935」 http://newspark.jp/newspark/info_exhibition/ex000078.html</p>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考